

花きの安定生産支援 ～デルフィニウム栽培管理改善～

(課題番号 2)

- ◆活動年次：令和3～4年度
- ◆対象：みついし花き振興会（56戸）

1 課題の背景

- ・花き振興会の販売実績の7割以上を占めるデルフィニウム生産において、近年生育不良が発生し減収する農業者が見られる。
- ・令和3年の取り組みから、土壌消毒済み圃場でも生育不良が発生しており、土壌消毒方法の見直しも必要となっている。
- ・デルフィニウムは年2作栽培されていることから、生育不良の発生時期や発生要因などを引き続き確認し、生育不良改善策を整理・提案する。

2 活動の経過

- 生育不良発生ほ場毎の要因確認
- 生育不良要因に対する改善策を整理、提案
- 緑肥導入による土壌物理性改善効果確認
- 土壌消毒前の土壌水分確認
- 関係機関と連携した検討および全体への経過周知

表1 生育不良確認経過

時期	品目	戸数
R4年	シネンシス	17戸
2～11月	エラータム	



写真1 生育不良要因確認



写真2 緑肥導入効果確認

【生育不良要因:病害虫】

- ・茎腐萎凋病
- ・ネグサレセンチュウ類
- ・クロバネキノコバエ類 など

【生育不良要因:その他】

- ・土壌の保水性、排水性の悪化
- ・根張り不良 など

3 活動の成果

病害対策改善戸数：2戸→9戸（到達度225%）

- 生育不良の要因
病害に加え、害虫、排水不良など、ほ場によって複合的に発生していた。
- 土壌消毒方法の改善
土壌消毒前の土壌水分が農業者の感覚と実際の状態に差があることがわかり、適切な条件の理解が進んだ。また、土壌消毒実施後にセンチュウ類が確認されたほ場では、実施時期などの見直しの必要であることが理解され、9戸が改善した。
- 土壌環境の改善
複合要因により生育不良が発生していることが理解され、緑肥活用による土壌環境改善を6戸、排水改善を4戸が実施した。
- 花き振興会での情報共有による意識変化
講習会等で情報共有したことで、土壌消毒のみが対策ではないことの理解が進んだ。

4 今後の課題

- ・効果的な土壌消毒実施に向けた情報の共有化
- ・生育不良要因となる栽培環境改善支援